

## 令和4年度 第1回「北の住まいタウン」検討協議会の開催概要

■ 開催日時 令和4年7月6日(水) 10:00~12:00

■ 開催場所 第2水産ビル 3階 3S会議室 (オンライン併用)

### ■ 出席者(敬称略、出席者名簿順)

[構成員](敬称略、出席者名簿順)

北海道大学大学院工学研究院 教授	瀬戸口 剛 [座長]
北海道大学大学院工学研究院 教授	石井 一英 (欠席)
北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科 教授	岡田 直人
北海道大学大学院情報科学研究院 教授	川村 秀憲 (欠席)
北海学園大学工学部生命工学科 教授	鈴木 聡士 (欠席)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構法人本部 理事	鈴木 大隆 (欠席)
株式会社 GB 産業化設計 代表取締役	岩井 宏文
株式会社 NERC 代表取締役	大友 詔雄
一般社団法人北海道商工会議所連合会 事務局次長	片岡 直之
北海道生活協同組合連合会 副会長理事	中島 則裕 (欠席)
株式会社日本政策投資銀行 北海道支店 企画審議役	廣瀬 真幸

(代理:中山課長)

北海道経済連合会 政策局長	柳川 雅昭
国土交通省北海道開発局事業振興部 都市住宅課長	巖倉 啓子
農林水産省北海道農政事務所生産経営産業部 食品企業調整官	川端 匡
環境省北海道地方環境事務所 統括環境保全企画官	小高 大輔 (オンライン)
北海道森林管理局森林整備部 資源活用第一課長	佐藤 淳一 (欠席)
国土交通省北海道運輸局交通企画部 交通企画課長	平澤 礼応人
経済産業省北海道経済産業局資源エネルギー環境部 エネルギー対策課長	山崎 量平 (オンライン)

[事務局]

北海道建設部建設政策局建設政策課  
株式会社石塚計画デザイン事務所(事業受託者)

### ■ 議題

- (1) 「北の住まいタウンの基本的な考え方」の見直し(素案)について
- (2) 令和4年度「北の住まいタウン」の取組について
- (3) その他

**【配布資料】**

次 第

出席者名簿

配 席 図

「北の住まいるタウン」検討協議会設置要領

資料1-1 令和3年度第2回検討協議会の主な意見とその対応

資料1-2 「北の住まいるタウン」の基本的な考え方（素案）

資料2 令和4年度「北の住まいるタウン」の取組について（案）

資料3 今後の予定スケジュール

**概要**

【「北の住まいるタウンの基本的な考え方」の見直し（素案）について】

<事務局より、資料1-1、資料1-2に基づき説明>

【令和4年度「北の住まいるタウン」の取組について】

<事務局より、資料2に基づき説明>

【その他】

<事務局より、資料3に基づき、今後の予定スケジュールを説明>

【資料説明後、意見交換】

～「北の住まいるタウンの基本的な考え方」の見直し（素案）の修正に関する意見交換～

○素案の修正等

**「ゼロカーボン北海道タスクフォース」による取組**

- ・ P17の「ゼロカーボン北海道タスクフォース」の体制については、支分部局をメンバーとし、北海道がオブザーバーとなっているので、そのように記載する。（小高委員）
- ・ P31の「ゼロカーボン北海道タスクフォース」の取組については、さまざまな支援施策を推進していることを伝えられるとよい。（小高委員）
- ・ 自治体が競ってゼロカーボン宣言をしているが、絵に書いた餅であってはいけない。量的に把握しないと可能性が見えてこない。ゼロカーボンの取組は定量化する取組。ゼロカーボン北海道タスクフォースの紹介をもう少し示してはどうか。（大友委員）
- ・ 資源循環の取組は木質バイオマスだけではない。（川端委員）

## ○北の住まいるタウンの目指す姿のイメージ図

### 全体のイメージ

- ・非常に絵は分かりやすくなった。ある程度象徴的な部分に絞ったイラストであることは理解ができる。（片岡委員）
- ・イメージ図は、地域循環共生圏に近いのでよい。（小高委員）
- ・前回、北海道経済連合会がとりまとめた「2050 北海道ビジョン」のイメージ図を紹介したが、それにも近づいてきた。（柳川委員）
- ・図をとおして北海道がこうなるというイメージが持てるのは素晴らしい。（大友委員）

### 基本的配置

- ・市街地を中心に配置し、周辺にエネルギー関連の取組みを表記するとわかりやすいのでは。（山崎委員）
- ・都市を中心に配置し、周辺とつながるようなイメージはどうか。（川端委員）  
（座長コメント：北の住まいるタウンの取組は集落の自立が重要な趣旨なので、都市を中心に配置しない構成でのイメージ図としたい）

### 地域産業活性化・雇用の創出の視点に農福連携の視点

- ・農地の絵でトマト収穫の箇所の言葉が、地域産業活性化・雇用の創出となっているが「農福連携」という言葉も示したい（岡田委員）  
（座長コメント：農福連携は重要である。農業が法人化する中で農福連携が進むことが想定され、農業自体のあり方も変わっていく。イメージ図か本文に入れていきたい）

### 太陽光エネルギーの活用からグリーンエネルギーの活用

- ・再生可能エネルギーの主役の1つは太陽光エネルギーと考えられる。太陽光パネルから熱を活用するイメージがあっても良い。グリーン燃料の方向性が書いてもいいかもしれない。水素の先にグリーンエネルギーがあってもよい。（大友委員）  
（座長コメント：藻類からエネルギーを得て、家畜を育てるようなグリーンエネルギーの活用も盛り込まれると良いかもしれない。）

### 太陽光パネルの効率的な設置、活用

- ・太陽光パネルは住宅の屋根だけでなく、ビルの屋上や壁面に設置する様子も示したい。（山崎委員）
- ・メガソーラーを推進するのなら、図中に示すとよいのではないかと。（川端委員）  
（座長コメント：都市の郊外にメガソーラーの基地があって、供給するような仕組みを示してもよい。稚内市では街の郊外にメガソーラーがあり市街地に供給している。北海道は積雪期があるため太陽パネルの設置方法が課題である。垂直設置などの効率の良い技術開発が進んでいる。）

### 建築物の性能向上

- ・北方型住宅と並べて ZEB・ZEH という文言も示したい。（山崎委員）  
（座長コメント：都市部に北方型住宅を示したい）

### 再生可能エネルギーの導入拡大やデータセンターの整備

- ・国の再エネ導入拡大施策としてエネルギー基地北海道として力を入れていく動きを表現したい。洋上風力、陸上風力に関連した箇所にデータセンターについても表現してはどうか。また、道外への電力の供給についても文言で示してはどうか。（山崎委員）

- ・データセンターは重要。再生可能エネルギーに関連して示すといいのでは。（柳川委員）  
（座長コメント：地域の自立には通信環境の整備が重要である。データセンターの整備可能性が高いのは北海道の優位性のひとつであり、データセンターへの電力は安定的に供給する必要がある。）

#### 炭素固定効果が注目されているブルーカーボン

- ・沿岸の炭素固定効果が注目されているブルーカーボンについても提示しては。また、このイメージ図に入れる必要はないが廃棄物の問題、廃プラ、廃パネルの処分も重要な話である。（大友委員）

#### 交通の目的地

- ・人は移動の目的があって交通を利用する。p33 に書いているが、都市部の絵で、目的地となるような広域公共施設や、乗り継ぎのバスターミナルを追加してもよいのでは。交通の乗り継ぎ施設は、単独でなく複合施設にすることも大切である。（平澤委員）
- ・トラックによる共同物流や交通のスイッチング拠点を加えてほしい。（岩井委員）

#### 交通と交通以外のサービスを連携させ課題解決を進める MaaS

- ・貨客混載交通が重要だがイラストはもう少し小さくしてよい。（柳川委員）
- ・MaaS という言葉も入れてほしい。（柳川委員）

#### 防災の視点や取組

- ・災害時における障害者、高齢者、子育て世帯などの要配慮者がスムーズに避難できる体制づくりが重要であるが、自治体における避難確保計画の策定がなかなか進んでいない。日頃から高齢者を支えるケアマネジャーが、緊急時の避難誘導も含めてケアプラン上で検討しておくといったことをイメージ図か本文に示せるとよい。（岡田委員）
- ・コンパクトシティにおける防災を示したい。p22 では大規模自然災害リスクの高まりを示しており、流域治水の推進、千島列島の地震津波への備えなどが必要である。このイメージ図では防災の取組は土砂災害の備えだけである。沿岸部の避難エリアや川沿いの低地等災害に対して危険な土地での住み方を変えていくイメージがほしい。大規模な災害が起きても住み続けられることを目指すといった方向性がわかる表現もほしい。防災の視点をしっかり表明していくのがよい。（巖倉委員）
- ・イメージ図に防災の観点がない。（川端委員）  
（座長コメント：都市・地域のレジリエンス化は重要なので盛り込みたい。北海道では、ブラックアウトを経験している。バックアップできる仕組みも示したい。

立地適正化計画の策定検討では、居住区域に津波エリアが重なった場合の対応が課題。コンパクト化したときに垂直避難の要素もあってよい。都市部に避難ビルを示したい。）

#### ICT 農業、DX による最適化

- ・ICT を活用したスマート農業のイメージで、圃場で GPS 搭載のトラクターが稼働している様子を示してはどうか。（川端委員）
- ・DX による最適化なども自治体への情報発信という意味であってもいい。（片岡委員）
- ・陸上養殖や農業についても AI 活用が進むなど技術革新が進んでいる。エネルギーを活用していく先の未来に、新たな産業が生まれる時代が訪れるという実感がある。（岩井委員）

(座長コメント：ハウス栽培において、ICTを使って温度管理、エネルギーのロスをなくして最適化していくことができる。陸上養殖は、特に寒冷な北海道では、水温管理を行い、魚の死亡率を下げて、養殖効率を上げていくことが重要となる。)

#### バイオマスによる資源循環

- ・バイオマス（メタン発酵でガスを作ってエネルギーにする）の中心は畜産であるが、技術的な進歩として、有機物であれば、なんでもガス化する技術が進展している。例えば、稲藁、籾殻など、繊維質でもあってもメタン発酵する。そうすると、地域でバイオマス発電を考えていく意味がある。原料の調達から、エネルギーを産んでどう使うかという地域の仕組みづくりがさらに重要になって地産地消が進む。（大友委員）
- ・ハウス栽培だけでなく、鹿追町のような陸上養殖も示したい。（山崎委員）
- ・鹿追町のように畜産バイオマスの電力を公共施設へ運ぶ視点も必要。（川端委員）

#### 情報通信の役割、活用

- ・ネットワークの1つである通信の部分が欠けている。特に地方の部分。（中山委員）
- ・人工衛星データを使いながら、地域と地域がつながるなど、情報通信についても示してほしい。（柳川委員）

#### 寒冷地の特徴を生かした雪氷熱や地中熱の活用

- ・雪氷などエネルギー活用で産業集積につながるようなイメージがあればよい。（片岡委員）  
(座長コメント：雪氷冷房は高齢者施設や新千歳空港でも使っている。ぜひ入れたい。)
- ・再エネを活用した地域課題の解決という視点では、冬の豪雪の活用について、地中熱を活用した施設を都市施設と関連して示すとよいのでは。（小高委員）

#### 燃料電池車

- ・将来的には水素自動車が増えるだろうが、現在は燃料電池車が主流なので「燃料電池車」の文言も併記したい。（山崎委員）

#### コンパクト化と広域ネットワークのメリハリ

- ・矢印が多いほど効率が悪いイメージになるので、もっと移動や輸送も集約して効率的で維持管理しやすいネットワークを目指すことを表現し、コンパクトな地域が広域ネットワークでつながっているメリハリのある絵にしてはどうか。（巖倉委員）
- ・コンパクト&ネットワークの部分のイメージが重要。（柳川委員）

#### まちの暮らしが魅力的な住環境

- ・山、農地、海、市街地のそれぞれで、居住者に適切なサービスが提供できるようなイラスト配置、構成を。（中山委員）
- ・エネルギー関連の絵が多いが、都市を大きくして魅力的に示すとよい。（川端委員）  
(座長コメント：それぞれのまちが、移住したくなるような魅力的な住環境にする視点も取り入れたい。)

#### 市街地の未来の姿

- ・緑地が多いビル街や、建物屋上には太陽パネルが設置されるなど未来的な街の姿にしたらいのでは。（巖倉委員）

以上